

# 低反応レベルレーザー活性化治療のご案内

低反応レベルレーザー活性化治療(LLLT)は、非常に弱いレーザー刺激のため、体には悪影響を与えず、血流を良くして体のバランスを整える治療です。日本レーザーリプロダクション学会などでは、下記の治療効果・期待が報告されています。

## 産科婦人科領域での効果・期待

1. ホルモンのアンバランスが改善される。
2. 子宮や卵巣への新しい血管が増殖する。
3. 子宮や卵巣の血流が増える。
4. 子宮がやわらかくなり成長する。
5. 子宮内膜が厚くなり、着床しやすくなる。
6. 卵管が太くなり卵子が通りやすくなる。
7. 未成熟卵が成熟卵になる。
8. 採卵の数が増加する。
9. 過激なアレルギー反応を抑えることで受精卵が子宮に着床しやすくする。
10. 流産がしにくくなる。



低反応レベルレーザー活性化治療器

## 男性不妊症への効果・期待

精子数が少ない(乏精子症:精子濃度2000万/ml 以下)患者の精子数が2~5倍に増加することが報告されています

[ピーター・ハッサン(1989年、Laser Therapy)].

ただし、無精子症の場合は、効果は期待できません。

## お申込み方法

低反応レベルレーザー活性化治療(LLLT)をご希望の方は、必ず医師による診察が必要です。診察の際に医師にご相談下さい。

治療実施日時 (都合により日時の変更があります)

月曜日、火曜日、木曜日、金曜日の

①13:30~14:00 ②14:00~14:30 ③14:30~15:00

④15:00~15:30 ⑤15:30~16:00

治療所要時間:30分/回、

完全予約制 ・料金:5,400円/回(受付でチケットをご購入下さい)

詳しくは受付にお問い合わせ下さい。

## はじめに:

レーザーは医療に広く用いられている技術の一つです。

最近の学会(日本レーザーリプロダクション学会)では生理痛、更年期障害、不妊症にもレーザー治療の効果が検討され、効果があると報告されています。

## レーザーとは:

レーザーを体に照射すると、体は「光熱反応」、「光電気反応」などを起こします。そのため医療では、この光の反応を利用して治療が行われています。

## レーザーは安全なの?:

レーザーは「安全なのか?」「痛くないのか?」、と不安に思われるかもしれませんが、安全で痛くないです。

レーザーには種類があり、治療用途に合わせてレーザーの種類や強さを使い分け、細胞の破壊や活性化に適用されています。

## レーザー治療の分類:

①低反応レベルレーザー治療(LLLT):レーザー活性治療。

②中反応レベルレーザー治療(MLLT):レーザー融合治療。

③高反応レベルレーザー治療(HLLT):レーザー破壊治療があります。

非常に弱い刺激は、生体にはなんら影響を与えず、ある程度の刺激は生体を活性化し、刺激を強めると活性化ではなく抑制に変わり、細胞を死(破壊)に至らしめます。

当院では①の低反応レベルレーザー治療(LLLT):レーザー活性治療を導入しています。

## 禁忌事項:次のような人は照射(LLLT)を受けないで下さい。

①妊娠または妊娠している可能性がある方、

②悪性腫瘍のある方、

③心臓疾患のある方(ペースメーカーを使用されている方など)、

④出血素因の高い方、

⑤新生児、乳児、⑥疾患などで体力が弱り、医師が不相当と認めた方、

⑦高齢者で体力が弱り、医師が不相当と認めた方。

⑧AIH後あるいは胚移植後の方の腹部への照射。

## LLLT施行方法(治療方法):

例えば医師の指示により看護師が、治療目的に応じて、頸部あるいは腹部などの治療部位にLLLTを照射します。

## 副作用について:

現段階では学会からLLLT照射による副作用の報告はではありません。

しかし、万一、LLLT施行後に体調不良が生じた場合は、医師あるいは看護師にお申し出下さい。